

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 1月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1 (電話) 0144-38-7200		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年2月4日

【情報提供票より】(21年 12月 26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 7月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17人、	非常勤 1人、 常勤換算 14.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:26,000 円 暖房費:12,000円(11~3月)	
敷金	有(家賃の2ヶ月分)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(12月 26日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	62 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	同樹会苫小牧病院 勤医協苫小牧病院 松井デンタルクリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ほのぼの音羽」は閑静な住宅街に立地しており、隣に保育園、近くには大きな公園があり子供や地域住民との交流が得られやすい恵まれた環境にある。利用者は公園に遊びに来る子供との会話や保育園の行事に参加し、子供との交流を楽しみにしている。開設3年が経過し、管理者は課題を抱えながらもホーム作り我真摯に取り組んでいる。管理者と職員は、ほのぼのとした環境で利用者が安心して過ごせるように、明るく笑顔で利用者の望みを確認しながら対応している。地域の行事などに参加し、住民との繋がりを大切にサービスへの取り組みを進めているところである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が2回目の外部評価であり、前回の外部評価の取り組み項目は優先順位を決めて具体的に進めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が分担して記入し、それらを管理者がまとめた。前回実施した外部評価の課題は具体的に取り組んでいる。期間を定めて職員間で目標達成計画を実施するまでには至っていないが、優先順位を決めながら取り組みを進めているところである。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>以前には運営推進会議を開催していたが、準備不足や職員異動などの事情も重なり会議を開いていない状況である。今年の2月には会議を実施する方向である。今後は年間のテーマなども考え、定期的に会議を開催する方向で調整している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情があった場合はミーティングで話し合い、内容や改善点などの書類を作成し代表者にも報告している。家族の来訪時に心配なことがないかを尋ねたり、帰りがけにも意見を聞くこともある。介護計画作成の時にも意見を聞いて計画に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接している保育園の運動会やクリスマスなどの行事に招待され、子供との交流を楽しんでいる。近くの公園に事業所の花壇を借り、花壇づくりを通して住民との身近な交流を進めている。町内会に加入しているが、七夕に来訪する子供にお菓子を配る程度なので、回覧板の活用、地域の情報を収集して、利用者が地域住民と交流できる場面作りを検討している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念「笑顔と思いやり」の中に地域との繋がりを大事にすることを掲げ、利用者が地域で住民との身近な交流の中で暮らせるように支えることを内容に込めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務所、廊下などに掲示し、ミーティング時に理念の精神に沿ってケアが行われているかを確認している。職員はケアの中で理念を振り返る機会もあり、理念を身近なものとして常に意識できるような方法も考えているところである。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接している保育園の運動会やクリスマスなどの行事に招待され、子供との交流を楽しんでいる。近くの公園に事業所の花壇を借り、花壇づくりを通して住民との身近な交流を進めている。町内会に加入しているが、七夕に来訪する子供にお菓子を配る程度で積極的な交流はできていない。		町内会の回覧板から行事などの情報を得る一方、事業所の行事を回覧板に載せて住民の参加を呼びかけたり、職員も地域の情報を収集するなどして利用者が地域住民と交流できる場面作りに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が分担して記入し、それらを管理者がまとめた。前回の外部評価での取り組み内容は改善計画シートで市に報告している。期間を定めて職員間で目標達成計画を実施するまでには至っていないが、優先順位を決めながら取り組みを進めているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>以前には運営推進会議を開催していたが、準備不足や職員異動などの事情も重なり会議を開いていない状況である。今年の2月には会議を実施する方向で準備中であるが、運営推進会議の重要性について不足な面が見られる。</p>		<p>運営推進会議は地域との繋がりをつくり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会となるので、年間のテーマを決めて参加を呼びかけるなど、定期的な会議開催への取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護の担当者とは来訪時には情報を交換し、必要な時は出向いて利用者の相談をしている。関係部署の担当者に事業所の空き状況やスプリンクラー設備について相談している。グループホーム管理者連絡協議会には市の担当者も参加しており、情報を得ている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>管理者は小遣いの内訳、職員の異動、行事や暮らしについて手紙を書き、行事などの写真を添えて毎月家族に送っている。個人宛に近況を知らせる便りも考えている。家族に報告したことを連絡ノートに書き、来訪時には職員が情報を共有して伝えるように指導している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情があった場合はミーティングで話し合い、内容や改善点などの書類を作成し代表者にも報告している。家族の来訪時に心配なことがないかを尋ねたり、帰りがけにも意見を聞くこともある。介護計画作成の時にも意見を聞いて計画に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症について理解を深めるためにユニット間の異動を計画的に行っていたが、現在は固定している。ユニット間の異動があっても利用者にとって安心してもらうようにして、職員の異動によるダメージがないように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の情報を収集し、主に管理者、リーダー的な職員が参加している。数名の参加になっているが研修資料や報告書で閲覧できるようにしている。採用時には業務の中で先輩職員から学んでいる。内部研修では、実技を入れた嚙下障害の対応、身体拘束、虐待などの勉強会を行い、認知症介護の仕方についてビデオを見て、各自の感想や今後の対応について報告をもらっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム管理者協議会の研修に職員も参加しているが、交流までには至っていない。研修も兼ねて、市内にある管理者同士の交流がある他事業所との相互実習を検討中である。</p>		<p>研修の一環として、職員が他の事業所を実習することでサービスの質を高める取り組みに期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居相談の際に見学を勧め、本人が来られない時は、管理者、計画作成者が自宅、病院、施設などを訪問し、暮らしの情報や不安に思っていることを聞き出し、安心して新しい環境に入れるように対応している。入居後は家族とも話し合い、馴染みの物を持ち込んでもらったり、利用者の間を取り持ちたりしてコミュニケーションを多くとり馴染めるように関わっている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>味付けなど調理で学ぶことが多い。利用者の言葉に気付かされることもあり、やさしい励ましの言葉で慰められる。体操や運動などを取り入れ動作の改善がある時には利用者も自信が得られ、共に喜びを分かち合っている。利用者と一緒に過ごす時間を意識的に作るように努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を徐々に取り入れ、暮らしの情報や生活歴を把握し今後の生活に活かせるようにしている。会話の中から本人の意向を知り、実現のために職員が同行しお寺参りに出かけた例もある。利用者の生活リズムに合わせ、意思を確認しながら思いを把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時に家族や利用者の意向を聞いた上で初期計画を作成し、1ヶ月ほど後に職員で話し合い意見を出し合って介護計画を作成している。計画は家族に説明され確認の署名捺印をもらっている。会議の内容は「サービス担当者会議の要点」として記録されている。センター方式のアセスメントの実施を順次始めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェック表により随時のチェックを行い、毎月のミーティングの結果をもとに3ヶ月ごとに介護計画を見直しており、生活が安定している場合は6ヶ月での見直しとしている。また転倒などで健康状態の変化が生じた場合の追加的な見直しも行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の希望に応じた買い物や、お寺参りなどの外出支援を実施している。体操など日常生活でのリハビリにも力を入れており、身体状況の改善も見られている。受診は往診が中心だがその他の通院支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関による月1回の往診を受けており、必要に応じて回数を増やすことも検討している。3名程度は元からのかかりつけ医の受診を受けており、ホームで通院支援を行っている。家族への受診報告も適切に行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームでまだ看取りの経験はなく、重度化や終末期についてもできるだけ本人の意向に沿って個別に検討する方針としている。利用開始時でのホームの方針は決めておらず、利用者や家族にも説明してはいたないため、方針は共有されていない。</p>		<p>重度化や終末期のケアのあり方についてホームの方針を定めて明文化し、利用開始時点のできるだけ早い段階で本人や家族等に説明し、方針を共有することを期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライバシーを尊重し、普段の呼びかけや介助の際に配慮しており、気になる場合は管理者が注意したり、ミーティングで話し合っている。個人の記録は事務スペースに安全に保管・管理しており、来客の受付簿は単票形式とし来客者のプライバシーを守っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者は自由に過ごすことができ、起床時間や食事の時間も本人のその日の気分に応じて柔軟に対応している。利用者間の仲の良さ悪しを把握し、それぞれが安心して過ごせるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食事の盛り付け、下膳などできることをなるべく利用者にしてもらっており、利用者は職員と一緒に楽しく食事をしている。献立は食材提供者によるものだが、利用者の好みに応じて一部変えたり、調理方法を工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の毎日入浴することができ、各利用者は週2回程度の入浴を行っている。入浴拒否がある場合は、声かけする職員を替えたり、タイミングを変えるなど工夫している。一人で入浴する利用者には見守り支援としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除に参加してもらったり、お花の水遣り、裁縫、公園の花壇の手入れなど利用者に役割を持ってもらっている。毎日の体操の時間に利用者の一人にリーダーになってもらっている。日常のレク活動はトランプなどで皆で楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な公園への散歩のほか、玄関前のベンチで日光浴をしたり、ジャンボタクシーを利用して外食に出かけるなどしている。ホームとしてできるだけ外出機会を増やすよう努力しているが、利用者ごとの差も見られる。		職員全体で普段の外出頻度を増やす意識を高めると共に、幅広い利用者が参加できる外出行事の増加を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に施錠しているが日中は施錠していない。玄関ドア付近にセンサーを設置し、利用者の出入りがある場合は気付くようになっている。各ユニットから玄関への戸には風鈴を付けて開閉時に鳴るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に1度、日中を想定した避難訓練が実施されており、訓練実施後の反省レポートも作成している。災害時の近隣住民への協力依頼や救急救命訓練は十分に実施されていない。</p>		<p>年2回のそれぞれ昼夜を想定した避難訓練の実施と、災害時の地域の方への協力依頼、救急救命訓練の実施を期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材提供会社の栄養士による献立に沿って調理しており、カロリーや栄養バランスが配慮された食事が提供されている。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、利用者ごとに適正量が確保できるよう調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には手作りの大きなカレンダーや装飾などが施され家庭的な雰囲気を作っている。明るさは照明やカーテンで調整されており、温度計湿度計を設置し、快適な環境を保つよう暖房や加湿器、夜間の濡れタオル干し、空気清浄機などで調整されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が元々使っていた家具や馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由にカレンダーなどを掲示することができる。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。